

天竺(てんじく)とは、インドのことをさす古い言葉です。唐天竺(からてんじく)と言いますが、唐は中国、天竺はインドを指し、遠い遠い国のことを言います。三蔵法師が孫悟空と目ざした国です。

「天竺」の語源は不明のようですが、「インド」の語源はインダス河からきています。インダス河はサンスクリット語 Sindhu (シンドウ)と言い、それがペルシャ語でSがHに変化してヒンドウとなり、さらにギリシャ語でHがとれてインドウ、インドスになたと言われます。長い歴史を感じる言葉の変化です。

<主管所感>

道しるべのない山

友松浩志

正月休みに、久しぶりに湘南の小さな山に登った。

住宅地のうらの、ヤブのような所から登りはじめて、シノ竹のなかに見え隠れしている細い道を探しながら、何とか登っていった。ともかくヤブばかり、住宅地の家々が下の方に小さくなくても、視界は一向に開けない。

しばらく登ると、T字の分かれ道にでた。右も左も下りで、何の表示もない。小さい山だから、地図も磁石も持ってきていない。いざとなれば、下の住宅地にかけ下ればいいと左に進むと道はどんどん下る一方、これじゃ頂上に行かれない。気を取り直して右に行くと、しだいに道は登りになって、いくつかの起伏を繰り返しやっと頂上に達した。

頂上といっても、三角点の礎石と小さな手書きの山名表示があるだけ。眺望はまったくないヤブの中。久しぶりの山は征服できたが、大きな教訓があった。それは「道しるべのない山」もあるということ。

たいがいの山には、道しるべがつけられている。登山口には「〇〇山登山口」、分かれ道には矢印、山頂には「〇〇山」と立派な表示がある。それが、あたり前と思っていると今回のようなことになる。この道でいいのだろうか、と登り始めて、方角も分からず突き進み、登った所もハッキリしない。小さい無名の山ほど、そんなものなのだ。

これは、何か人生に似ている。人生の入り口に、「〇〇さん入口」なんて書いてある訳ではないし、いろんな分かれ道に、矢印がついている訳でもない。一生懸命登り続けて、やっとたどり着いた所も、頂上かどうかよく分からない。

人はみな、「道しるべ」のない山に登っているようなもの



おろかなるもの おのれ愚かなりと思うは
彼これによりて またかしこきなり
おろかなるに おのれかしこしと思うは
彼こそ まこと おろかといわるべし

(法句経 63)

◇ 新・法句経講義 71 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載法句経について解説しています。>

自分の「おろかさ」に気づかない人って、案外たくさんいるものです。知ったかぶりで、自分の意見をしゃべりまくる、そんな人を、よくテレビのショー番組で見かけます。

とはいえ、人の「おろかさ」は見えても、自分の「おろかさ」には、なかなか気づかないものです。ギリシャのソクラテスが「無知の知」(自分が何も知らないことを知っているという自覚)を尊重したように、お釈迦さまも「おろかさ」の「自覚」を求めておられます。

「人」は、どこまでいっても「人」です。どこかの優秀な学校を卒業しようが、どんな大会社の社長さんだろうが、「人」は「人」の限界を越えることはできません。それ故に、「人」としての愚かさも、またずっと持ちつづけていきます。その自覚があるかないか、それがその人を決めます。

高ぶらず、偉ぶらず、自分の力を自覚して謙虚に人に接する、そんな「人」のあり方、姿が、求められているのです。

だ。あっちだろうか、こっちだろうか、と迷いながら、ひとり一人の山を登っていく。ときには人に道を聞いたり、友だちになったりすることはあっても、最後は自分の頂上に立つために登っていく。切ないけれど、寂しいけれど、それ故に尊いことのように思う。

◆ 冬のお泊まり保育 ◆



雪まみれになってあそびました。▲

12月22日・23日に神田寺幼稚園の冬のお泊まり保育が新潟県の越後湯沢で行なわれました。暖冬で、雪の少ないはずのスキー場に、当日になって大量の降雪があり、子どもたちは新雪に埋もれながら、雪あそびやソリあそびを楽しみました。

民宿では、みんなでコタツに入ったり大浴場であそんだりして、これも楽しい思い出になりました。

◆ 圓諦師 50回忌法要 ◆



昨年の11月16日、神田寺会堂で、神田寺先々代住職・主管の友松圓諦師の50回忌法要が行なわれました。昭和48年、78歳で遷化された圓諦師は、法句經の講義や多くの著作で知られ、仏教学者としても活躍されました。当日、圓諦師から直接教えを受けた弟子の方々や、檀信徒の皆さん約30名が参加され、神田寺の勤行式による法要が行なわれ、幼稚園の先生方による仏教聖歌も歌われました。法要後、圓諦師の法話録音が流され、なつかしい声が会堂に響きました。その後、友松浩志主管から御礼と今後の神田寺のあり方についてのお話しかあり、夕刻解散となりました。



<真理ニュース>

◆ 彼岸会

春の彼岸会は、昨秋のお彼岸と同じかたちで実施します。

① 法要参加

3月20日(水) 午前10時・午後1時に、神田寺会堂で法要を行ないます。

・法要に参加される方は、同封の申込みハガキでお知らせ下さい。

・神田寺で法要と法話があります。お土産のお寿司の配布があります。

・両墓地まで、大型バスでお送りします。

・当日は両墓地で、読経も随時行ないます。

② 塔婆供養

同封のハガキ(春彼岸会塔婆供養申込書)で、事前に受け付けます。

・先祖供養塔婆は、1本: 3000円です。

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。(個別供養塔婆は1本: 4000円です。)

・お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。(手数料なし)

③墓地管理費

- ・同封の振替用紙でご送金頂くか、墓地でお支払い下さい。

◆花まつり

お釈迦様の生誕をお祝いする「花まつり」は、本年も白象パレードなどは中止となります。

8日(月)に、玄関に花御堂をお飾りします。自由に灌仏(お釈迦様の像に甘茶をかけること)が出来ます。

◆真理舎の会 (法句経による仏教講話)

今年の予定は以下の通りです。

- ・4月12日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・降誕会)
- ・6月14日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
- ・10月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
- ・12月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・成道会)

※「仏教動行式」による読経と、友松浩志主管の仏教講話が行なわれます。

◆能登地震で被災された方々に、心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。寺院や保育施設にも大きな被害が出ているようです。復興を祈念申し上げます。



ただ 一向(ひたむき)に そしらるる
ただ 一向に 讚(ほ)めらるる
かかるもの 過ぎゆきし日にはあらざりき
今もまたあらざるなり
やがて 来ん日にもあることなからん

(法句經 228)

◇ 新・法句經講義 72 ◇

<※ 「新・法句經講義」は、巻頭ページ掲載の法句經について解説しています。>

このところ、どこに行っても外国人の姿が多く見られるようになりました。観光地では、外国人があまりに多くて、收拾がつかなくなっているようです。

なぜ、こんなことになっているのか。コロナ禍のあと、世界中の人が解放感を感じて、円安の影響で集まっているのが実情のようです。それ以外にも、治安がいいとか、日本食が美味しいとか、町がきれい、なかにはトイレ(洗浄機能)が気に入ったまで、さまざまな意見が語られています。

確かに日本は安全で治安もいい国ですが、これまではそれほど自画自賛できる国とは思いませんでした。第2次世界大戦のあと、アメリカに進駐され、遅れた民主国家として「再建」され、欧米諸国を目標に必死に産業や街路を整備してきました。

敗戦国家、遅れた国が、鉄鋼や自動車を機軸に GDP 世

界第2位に発展して、今の日本になったのです。「そしられて」きた国が、「ほめられる」国になったのは素晴らしいことですが、それがいつまでも続くという保証はありません。

「ほめられても」おごらず、「そしられても」くじけない姿勢こそ、大切なことだと思います。

仏教豆知識 91

薬石

「薬石」(やくせき)とは、薬と石針、薬品と治療法のことです。「薬石効なく」というのは、「薬や治療の効果がなくて」という意味になります。

また「薬石」には、「夕食」の意味もあります。仏教の戒律では「午後」に食事をするを禁じていたため(非時食)、午後の食事(夕食)のことを「薬石」と言って、健康のため隠語にして許していたと言われます。

<主管所感>

考えて生る

友松浩志

区役所の男の人から電話があった。以前送った申請書が出ていないという。「どんな書類ですか」と聞くと、緑色の封筒に入ったものだという。「記憶にないです」と答えると申請期間は今日までだが、特別に取り扱ってくれるという。

「ありがとうございます」とお礼を言うと、いろいろ手続きの話が始まった。

その内、「口座はどこ銀行ですか」という話しになって、「少し調べます」と電話がいったん切れた。電話が切れてから、何か変だなと思うようになった。とりあえず区役所に電話してみた。電話に出た受付の女の人が、「それ、何かあやしいですね」と言う。「そうだよ」ということになって切ると、またさっきの電話があった。

「それで、どうすればいいですか」と言うと、相手の態度が変わった。「何かあったんですか、さっきと感じ違いますね」と言う。「だってこれ、詐欺の電話でしょ」と言うと、突然電話が切れた。

まったく、ギリギリだった。「信じて」しまうと、疑うまでに時間がかかる。今回は、はじめに「区役所」と切り出されて、それが頭に入ってしまい、なかなか修正できなかった。オレオレ詐欺でも、初めに「孫」なり「息子」が頭に入ってしまうと、妙な話してもどんどん信じてしまうようだ。パソコンやスマホにも「あやしげ」な広告が毎日のように送られてくる。大きな会社の名前が入っていると、何となく信じてしまう。これからは、以前のように、郵便で届いたものの方が信じられる、という人もいる。

人を「だます」のは、人として最低の行為である。それを「仕事」にしている人は、最低の人である。そのうえで、自分を守る方策も必要である。それは「考える」という習慣だと思う。感覚的に生きるのが今風と思われるが、やはり「考えて」生きることは大切なことだ。スマホばかりいじっていると、情報に引きずられる頭になってしまう。「考える」ゆえに「人」であることを忘れてはならない。

◆ 令和 5 年度・事業報告 ◆ 学校法人

真理学園

学校法人の運営において、その事業内容と評価(自己評価と関係者評価)について広く公表することが義務づけられています。ここでは、令和 5 年度の事業内容と評価についてお知らせ致します。

■ 事業内容 ■

<法人全体>

・コロナ感染も落ち着き、マスクやパーテーションのない保育が戻ってきました。行事も徐々に復活させ、明るい保育が展開されました。

・園バス内の置き去り事故により、園バスに「置き去り防止装置」の設置が義務化されました。両園とも、バス内に装置を設置するとともに、子ども達の点呼確認、乗降車確認の徹底をはかりました。

<神田寺幼稚園>

・行事が復活するなか、保護者の参加基準について様々な意見がありました。コロナなどの感染状況を見ながら、参加者に不満がない運営を考えてまいります。

・満 3 歳児の園児募集を行なったところ、10 名の応募がありました。徐々に 3 年保育から 4 年保育への流れが見えてきました。

<真理学園幼稚園>

・行事を復活させながら、新たな行事のあり方を検討しました。各行事が、子ども達や保育者の負担にならないよう、考えていきます。

・陸屋根(屋上)の防水工事を実施しました。

■ 事業評価 ■ 以下の意見がありました。

・園児減少にともない、クラス編成や保育活動の仕方に工夫が見られたが、子ども達の発達や体験活動などについて、一層の配慮を行なって欲しい。

・IT による園業務管理は、利便性の向上につながったが、一部使用手順に課題もあるので、さらなる検討をして欲しい。

・神田寺幼稚園周辺の環境について、引き続き区や各機関と協議しながら、安全面、防犯面で十分な配慮をして欲しい。

◆ 秋のお彼岸について ◆

今年も、秋のお彼岸が近づいてまいりました。お彼岸は、以前のように神田寺の会堂で法要を行ない、バスで墓地へ移動して頂くかたちで行なわせて頂きます。

・ 9 月 22 日(日) 午前 10 時午後 1 時の 2 回 神田寺会堂で法要を行ないます。

(ご参加の有無、参加人数を事前に申込葉書でお知らせ下さい。)

・ 法要と法話 友松浩志 住職

・ 塔婆供養 同封の申込葉書で、事前に受けつけ致します。

*先祖供養塔婆は、1 本:3000 円です。

*戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。

(個別供養塔婆は 1 本:4000 円です。)

*お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。

*お塔婆は、神田寺で法要が終了後お受け取り下さい。

(法要に参加されない方のお塔婆は、寺で墓地にお建て致します。)

・お土産のお寿司は、神田寺で配布致します。(お一人 1 個)

・両墓地まで、大型バスでお送り致します。(帰りの駅までの送りはありません。)

(バスご利用人数を、事前に申込葉書でお知らせ下さい。)

・当日、両墓地でご希望の方に随時読経を行ないます。

◆ 明治仏教史料のデータ化 ◆

神田寺で保管されてきた「明治仏教史編纂所」の史料の一部が、丸善雄松堂株式会社によってデータ化され、刊行されることになりました。現在この史料は、慶応義塾大学附属研究所の斯道文庫に寄託保管されていますが、広く(海外にも)利用しやすい状況をつくるため、約2年間をかけてデータ化される予定です。この史料には、国立国会図書館にもない貴重史料も多く、近年注目されている明治期の仏教研究には欠かせない史料の宝庫と言われています。

グ等をご利用下さいますようお願い申し上げます。

◆猛暑の夏が終わると、かけ足で歳末への歩みが始まります。世界情勢も、政治状況も、なかなか安定しませんが、一日一日の積み重ねが大切です。皆様くれぐれもお健やかに過ごして下さいませよう、お祈り致しております。

<真理ニュース>

◆お泊り保育

今年も真理学園幼稚園では、7月19日と20日に「お泊り保育」を実施しました。1日目は「プラネタリウム見学」「きもだめし」「花火大会」を行ない、カレー作りもして、園内で就寝。2日目は猛暑のため園内で静かにプラネタリウムを作ったりして過ごしました。

神田寺幼稚園では、夏の「お楽しみ会」を7月18日に実施しました。

◆夏の保育

夏休み中の保育(朝の保育・延長保育を含む)は、例年と同じく希望者に実施しました。

◆墓地管理体制の変更 <平日のお参りは事前申込制に>

墓地の管理について、以下のような変更を行ないます。

①土・日・祭日については、これまで通り 午前9時から午後5時まで、随時お参りが出来ます。

②お彼岸の前後、お盆の期間、年末年始も、随時お参りが出来ます。

③平日のお墓参りは、2日前(前々日)までに、お電話でご予約をお願い致します。(受付電話 ; 03-3251-8683)

・長年にわたり常駐管理を行なってまいりましたが、平日のお参りが少なく人件費の高騰などもありこのような結果となりました。皆さまのご理解を頂ければ幸いです。

◆真理舎の会

10月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

12月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

(兼・成道会)

・主管による分かりやすい仏教講話があります。参加者が減少しています。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

◆西墓地近くにあった「駐車スペース」は、都合により閉鎖しました。大変ご迷惑をおかけ致しますが、コインパーキング

真理通信

第116号 令和6年(2024年)12月1日発行

年3回(3・9・12月)発行



わがこの身をば うつろなる瓶(すえもの)のごとく

脆(もろ)きものと知り

わがこの心をば 城堡(しろ)のごとく守り

智慧の武具(つるぎ)もて

誘惑者(まよわし)とたたかい

已に(すで)に勝ちえたるは是(これ)を守りて

心に おこたりをもつ勿(なか)れ (法句経 40)

◇ 新・法句経講義 72 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。>

人は、身体と心をもって生きています。身体だけで生きている訳ではないし、心だけで生きられる訳でもありません。

身体は、微妙なバランスのうえに成り立っています。一見頑健に見える肉体も、小さな細菌やウィルスの侵入でガタガタになってしまいます。薬や医学が発達していなかった古代インドでは、簡単に人が病気になり、死んでいく場面が多く見られたはずで

心の外敵は「誘惑者」です。あれも食べたいこれも食べたいという欲望、性的な欲望、権力への欲望、怠けたい欲望、

眠ってサボりたい欲望、欲望という誘惑者をあげたらキリがありません。

誘惑者に負けてしまう弱い心。それを守るのは智慧という武器です。誘惑者はどこにいるかわかりません。それを予見する智慧。欲望に負けたらどうなるか、それを判断する智慧。智慧は単なる知識ではなく、認識の奥に備わっている判断力です。常にそれを働かせて自分の心を守る、生きている限りつづく、長い長い戦いなのです。

墓地管理方法の変更

先号でもお知らせ致しましたが、当寺の西・東墓地の管理方法を10月より変更させて頂いております。

○ 土・日・祭日はこれまで通り、午前9時から午後5時まで、自由にお参りできます。

○ 平日のお参りは予約制です。お参りの2日前までに電話でご予約下さい。

○ お彼岸、お盆、年末年始の期間は、曜日に関わらず、上記時間にお参り出来ます。

今年の年末年始は、12月28日(土)～1月5日(日)、予約はおりません。

※予約電話 03-3251-8683 ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

<主管所感>

恨むということ

友松浩志

人間長くやっていると、良いこともあれば嫌なこともある。かけがえのない人に会うこともあれば、二度と会いたくない人に会うこともある。

お坊さんをやっていると、法話などを説く立場にいと、人に恨(うら)みなど抱かずに、すべてを許しなさい、などと説くのが本

当なのだろうが、最近そんなことが辛くなってきた。もっと本音で話したくなった。もとより修行など出来ていない、未熟そのものの自分ではあるが、自分の思いを、自分の言葉で話したくなった。

それでこの前、「真理舎の会」で、「恨み」について本音の話しをした。私にとっての恨みの話し。山のようにある「私の恨み」の中で、ここでは、小さい話をひとつ。

10年位前、小学校の同窓会に出かけた。ちょっとしたホテルで、立食の会。もちろん平服で行った。そうしたら帰りがけ、ひとりの同窓に「おい友松、今日は袈裟どうした」と言われた。とっさに「ああ、売ってここに来た」と言い返した。さんざん言われ続けた坊さん蔑視のひと言。もはや慣れたが、これも「私の恨み」である。

事件や事故の被害に合った人の「恨み」は、こんなものじゃないだろう。嘘、裏切り、詐欺、陰謀、いじめ等々に合った人も、全身全霊で、自分のすべてをかけて「恨む」ことだってあるだろう。あるネットの記事に、恨みを晴らす方法として、「復讐する」「忘れる」「許す」「無視する」があげられていた。

浄土宗の開祖・法然上人は、9歳のとき、目の前で父親が殺されている。本来なら仇討ちをするのが子の務めだろうが、父親の残した言葉に従って比叡山にのぼり、出家した。それは「恨み」を忘れるためだろうか？ 許すためだろうか？

私は、法然上人は、「恨み」を忘れもしなければ、許しもしなかったように思う。逆に逃れられない「恨み」を生きた人のように思う。そして、「祈ること」にたどり着いた人なのではないか。あたり前の人間として、ただ「南無阿弥陀仏」ととなえることに。

仏教豆知識 92	加 持
----------	-----

加持祈禱(かじきとう)と言いますが、加持も祈禱も同じ意味で、ともに仏様の加護を祈って念じること、除災、おはらいをすることを言います。

また、「加」は仏様から人々への働きかけ、「持」は人々がそれを受けとめ保持することを言い、仏様と人々が相互に関わり合うことを表してもいます。そうした相互の関わり合いに神秘的な力が作用すると考え、呪力や超自然的な力に対して「加持」という言葉が用いられるようになりました。

<令和7年 年回表>

(没年)

1 周 忌	令和 6年
3 回 忌	令和 5年
7 回 忌	平31・令1
13 回 忌	平成25年
17 回 忌	平成21年
23 回 忌	平成15年
27 回 忌	平成11年
33 回 忌	平成 5年
37 回 忌	昭64・平1
43 回 忌	昭和58年
47 回 忌	昭和54年
50 回 忌	昭和51年
70 回 忌	昭和31年
100 回 忌	大15・昭1

○ 土日に法要を希望される方が多いため、予約は電話でお早め
にお願い致します。

参加人数、塔婆をあげる方のお名前などは、1週間前まで
お知らせ下さい。

当日は位牌をご持参下さい。車2～3台駐車可能。タクシ
ーも呼べます。

○ 西墓地別院での法要をご希望の方は、その旨のお申し出をお
願致します。

東墓地の檀家の方も、西墓地別院で法要を行なうことが出来
ます。

車は正面に1台駐車可能。東墓地の方は、墓地まで徒歩移動
(2～3分)となります。

◆ 思い切り身体を動かす ◆

— 運動会/さまざまな工夫をこらして —

秋の運動会は、幼稚園にとって大切な行事です。思い切り身体
を動かすことを目標に、さまざまな工夫をこらして活動を盛り上
げています。運動が苦手な子も、恥ずかしがりの子も、みんなと
一緒になって動くことで、自分の身体の力を実感していきます。

神田寺幼稚園の運動会は、隣の区立小学校のドーム型の屋上校
庭をお借りして、毎年行なっています。真理学園幼稚園の運動会

は園庭で行ないますが、隣接する雑木林の公園も使って、今年は久しぶりにマラソン大会も再開しました。ご家庭の皆さんもたくさん参加され、楽しい秋の一日になりました。



△ リレーはみんな大好きです。



△ すばらしいダンスを披露しました。

◆修正会元旦に西墓地別院で開催◆

お寺のお正月は、元日の「修正会」(しゅしょうえ)から始まります。神田寺では、創建以来、元日の午後2時から、秋葉原の神田寺会堂で行なってきましたが、近年参加の人数が減少し、参加される方のほとんどが檀信徒の方となっておりますので、お正月の墓参を兼ねるかたちで、今回初めて西墓地別院で開催することにしました。

○ 1月1日(水)午後2時より 西墓地別院2階

新年の祈願法要ならびに懇親会 (懇親会の参加は自由、約1時間で終了)

※元日の午後、お墓参りを兼ねてご参加頂ければ幸いです。新年をお祝いするお菓子を差し上げます。

お楽しみに是非ご参加下さい。

<真理ニュース>

◆ 年末・年始

神田寺事務所の業務は、年末は12月27日まで、年始1月6日よりとなります。

◆ 修正会

1月1日(水)午後2時より、神田寺西墓地別院で行ないます。新年の平和と安寧をともお祈りします。どなたでもご参加に

なれますので、是非お誘い合わせてご参加下さい。

(詳細は前段をご覧ください。)

◆ 彼岸会

春のお彼岸は、3月20日(木)に実施します。開催方法は、秋の彼岸会と同じく、神田寺で午前10時と午後1時の2回法要を行ない、バスで墓地までお送り致します。今回も、お塔婆は事前にお申込み頂き、出欠も事前にお知らせ頂くこととなります。後日、またご案内申し上げます。

◆ 真理舎の会

・12月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・成道会)

・2月14日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・涅槃会)

・4月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・降誕会)

※「仏教勤行式」による読経、法句経講話、および懇談会を行ないます。

◆先の総選挙で、政治状況に変化の兆しが見られます。世界の政治も複雑化しています。

新しい年が、平穏で幸せな年になることを祈るばかりです。皆様お元気で。